AST（Antimicrobial Stewardship Team）

1 目的

院内における抗菌薬使用･耐性菌発生状況の把握と分析、感染症に対する治療および細菌学的な助言を行うことを目的とする。

2 構成メンバー

チームリーダー：勝呂（病院感染対策委員長・総合診療科部長）

メンバー：	専任医師	清水（ICD・外科部長）
	外科医師	横溝（外科）
	泌尿器科医師	中里（泌尿器科部長）
	専従看護師	小畑（感染制御実践看護師・看護部係長）
	専従薬剤師	山田（抗菌化学療法認定薬剤師・薬剤部副主任）
	専任検査技師	内ケ崎（臨床検査科）
	書記	渡辺（総務課課長）

3 開催日時

会議　第１・３金曜日
16：00～（第１金曜日はICC終了後より開始）

4 活動内容

●年間活動

- 感染症治療のモニタリング
  検査の実施状況（微生物検査、血液検査、画像診断等）
  初期選択抗菌薬の適切性（選択・用法・用量）
  治療薬物モニタリングの実施
- 感染症治療の評価とフィードバック
- 微生物検査の適正な利用のための体制整備
  適切な検体採取（指導・教育、再採取についてのフィードバック）
  適切な培養検査の提出（血液培養２セット採取等）
  アンチバイオグラムの作成
- プロセス指標、アウトカム指標の定期的評価
- 抗菌薬適正使用に関する教育、啓発、研修の企画と開催：年２回
- 抗菌薬適正使用に関するマニュアルの作成、改訂
- 取り扱い抗菌薬の見直し
- 抗菌薬適正使用に関するコンサルテーション
  院内および加算算定していない医療機関からの相談を受ける
- 各部門との連絡、調整

2018年度４月より抗菌薬適正使用支援チーム（AST）が設立された。

設立された目的は、世界規模で増加している耐性菌を減らすことである。そのために世界的に抗菌薬を適正に使用し、かつ抗菌薬の使用量を減らすことが重要である。このような目的からＡＳＴが設置された。一時人員不足で休止していた時期があり、2022年４月よりＡＳＴ活動を再開した。

ＡＳＴ活動を再開して、４年目となった。業務は本格的に軌道に乗り、抗菌薬適正使用に関する新たな問題点も見えてきた。2025年3月に電子カルテが更新となり以前より業務が効率化された。効率化された電子カルテを利用し、無理をせず実現可能な抗菌薬適正使用を推進していき、地域に貢献できる様努めたい。

2025年度力を入れて取り組んだ外来における抗菌薬適正使用は、2025年４月から2026年２月のAccess抗菌薬の使用割合40.175%と厚生労働省の目標とする60%には到達していないが、全国で上位15%程度に位置し継続して抗菌薬適正使用体制加算(5点)が算定できた。2026年度も継続して取り組みを行い、60%の到達を目指したい。

【今後の課題】

・厚生労働省が策定した薬剤耐性（AMR）アクションプラン達成への取り組み
・現状の抗菌薬使用量の共有
・抗菌薬適正使用に関する教育・啓発の充実
・医師との連携強化
・外来抗菌薬の適正化